



Thinking of Love, Peace, Freedom and Diversity in ourselves,
each community and the world . . .
We appreciate your support and encouragement.



一般社団法人blue earth green trees
2022年度活動報告書
2022年4月1日～2023年3月31日



目次	
ご挨拶	P.1-2
各プロジェクト活動報告	
1.多様性を認め合い、お互いを生かし合う社会を育む事業	
愛と平和と自由と多様性の種を蒔く / Seedfolks of Love, Peace, Freedom and Diversity P.3 1枚の写真から P.3 第12回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks P.4 第13回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks P.4 第14回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks P.5 第15回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks P.5 第16回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks P.6 第17回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks P.6 第18回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks P.7 第19回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks P.7	
2020年度/2021年度(2020年4月～2022年3月)第1～第11回種を蒔く人のお話を聴く会P.8 手話パフォーマンスワークショップ P.8 ハートフルリーディング/heartful readingP.9 第5回ROUDOKUプロジェクトプロジェクト～多様性を聴き合う&感じる P.9 第6回ROUDOKUプロジェクトプロジェクト～多様性を聴き合う&感じるP.10 第7回ROUDOKUプロジェクトプロジェクト～多様性を聴き合う&感じるP.10	
2.心の健康を応援し、個人の成長及び健康的な人間関係を促す事業	
健康的な日々のためにP.11 子育てカフェ P.11 セルフケアヨガプロジェクト P.12 ひとときカフェP.12	
3.SDGsについての理解を深め、SDGs貢献団体を応援する事業	
2020年度/2021年度(2020年4月～2022年3月) 第1～第8回SDGs勉強会 P.13 第9回 SDGs勉強会 P.13 第10回 SDGs勉強会 P.14 第11回 SDGs勉強会 P.15 第12回 SDGs勉強会 P.16 第13回 SDGs勉強会 P.17 第14回 SDGs勉強会 P.18 フェアトレードプロジェクトP.19	
4.同一の目的を持つ団体と協力・協働する事業	
手作りマスクを届けようプロジェクトP.19 手作り布ナプキンを届けようプロジェクトP.20 みんなで取り組む難民の皆さんと進む20億キロメートルプロジェクトP.20	
ご協力団体様・協働団体様からのメッセージ	
特定非営利活動法人国連UNHCR協会 芳島昭一様より P.21 特定非営利活動法人 AMDA社会開発機構 山上正道様より P.21 株式会社フェアトレードコットンイニシアティブ 入江英明様より P.22 特定非営利活動法人 関西NGO協議会様より P.22	
ご協力者の皆様	P.23
ご協力団体の皆様	P.24
寄付報告	P.25
決算報告	P.26
理事・事務局メッセージ	P.27

ご挨拶

古都奈良では、1400年前から種を蒔き、木を植え、自然の中で心豊かに暮らし、国内外の人々と交流・協力する文化が育まれてきました。そのような文化の中で、国内外の多様なお一人おひとりとの出会いと有機的な繋がりから、blue earth green treesの任意団体としてのささやかな活動が2018年に始まりました。2019年には多様性ワークショップの開催、オーストラリア森林火災被災者・被災動物応援ドネーションイベント、オーストラリアNGO訪問などを行いました。2020年2月中旬にオーストラリアから帰国後、世界の様々な国で新型コロナウイルスの感染拡大が報道され、4月には日本でも第1回目の緊急事態宣言が発出されました。

2020年4月、新型コロナウイルスが感染拡大する中で、心身の健康を大切にできるように、また人と人の繋がりを大切にできるように、blue earth green treesは一般社団法人として新たなスタートをきりました。コロナ禍での日々、多様な個人の声を聴きながら、活動の意味を多面的に考える日々が続きました。

2021年度、前年に引き続き、医療従事者・関係者の皆様はじめ、多くの皆様のご尽力があり、個人・団体が感染拡大防止を意識し、それぞれの現場に、社会に少しずつ活気が戻ってまいりました。blue earth green treesにおきましても、「多様性を認め合い、お互いを生かし合う社会を育む事業」、「心身の健康を応援し、個人の成長及び健康的な人間関係を促す事業」、「SDGsについての理解を深め、SDGs貢献団体を応援する事業」、「同一の目的を持つ団体と協力・協働する事業」を柱に、さまざまな制約を受けながらも多様なプロジェクトを推進することができました。安全に安心できる環境で各プロジェクトを進めることができましたのは、信頼で繋がる多様な個人・団体の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

2022年5月、UNHCRは紛争や迫害で故郷を追われた人の数は1億人を超えたと発表しました。大切な家族や友人を突然奪われること、家族や友人が暴力を受ける場面に直面すること、自分自身が暴力を受けること、住み慣れた家や土地を追われること、仕事を失うこと、安全な場所を求めて延々と歩き続けること、子どもたちに水や食料を与えられないこと、子どもたちが病気になることも治療ができないこと、子どもたちが教育を受けられないこと、豊かな自然が破壊されていくこと、民主的な社会が専制者に抑圧されていくこと・・・、世界のさまざまな場所で理不尽なことが起こり、子どもたちや高齢者をはじめ多くの方々が苦しんでいる状況が続きます。

平和的解決に向かうプロセスでは、気候変動への対策と共に、対立や紛争や迫害の背景や複雑な要素を多面的に確かめながら、一刻も早い停戦・終戦への道筋をつけられる機能を持つ機関が必要であると思われます。国際社会においても、私たちの日常においても、孤立や排除ではなく、人権を尊重する意識を高め、多様な他者への理解を深める視点と行動、多様な他者と繋がる力や対話をする力、協調・協働するあり方を確かな意志を持って自分自身の中に育て、関わるすべての個人や団体が成長するイメージを持ち、忍耐強く進む他はありません。



blue earth green treesの名前は、国内外の多様な一人ひとりがそれぞれの心の中に、世界に、'Love, Peace, Freedom & Diversity'の種を蒔き、その一粒一粒が芽となり、一本一本の緑の木が青い地球に健やかに育つことをイメージしたところから生まれました。国や人種や言語や文化や宗教などで分断されることなく、私たち一人ひとりが青い地球に生まれ、育つ一本一本の多様な木であり、根っこでは繋がりが合い、互いに支え合い、補い合うような存在であると感じます。一人ひとりが心身の健康を大切に、自分自身と相手の内側にある力を信じ、成長を促進し合える豊かで開かれた関係を築き、国内外の多様な個人・団体の皆様と共に、より良い社会をつくっていきけるように一日一日を積み重ねていきたいと思っております。

SDGs(Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)で掲げられている'Leave No One Behind'/'誰一人取り残さない'という理念を心に、法律・教育・心理・医療・福祉・環境・まちづくり・農業など、多様な分野の専門家の皆さんと協力し合い、セクターの壁を越え、パートナーシップを活性化し、確かな歩みを重ねていきたいと思っています。何よりも日々の暮らしの中で個人として聡明な判断を重ね、行動していくことの必要を感じます。

私たち一人ひとりの選択と行動が次世代やその先の子どもたちの幸せや地球の未来に直結している「今、ここ」で、国内外の多様な個人の声を聴き合い、それぞれのあり方を見つめ合い、学び合い、育て合う文化を育ててまいりましょう。そして、地球も人も自然体で生き生きとそのままの輝きを発することができますように、国内外のそれぞれのコミュニティにおいて自由で創造的で心豊かで柔軟なあり方を大切に歩み続けましょう。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2023年6月

一般社団法人blue earth green trees



1. 多様性を認め合い、お互いを生かし合う社会を育む事業

愛と平和と自由と多様性の種を蒔く / Seedfolks of Love, Peace, Freedom and Diversity

活動概要	仕事やライフワークについての志と実践、社会課題や地域課題への取り組み、家族や友人との繋がり、心を豊かにする芸術、毎日を健康に希望をもって生きていける知恵など、国内外の個人の声を聴き合い、多様な視点を育て合う場を2020年からHP上につくっています。
メッセージ掲載数	434件（2020年度159件+2021年度144件+2022年度131件）
リーダー〈東口千津子〉の声	多様なメッセージを届けて下さったお一人おひとりに感謝致します。それぞれの豊かな視点に学び、個人・組織・社会について考え、より良い方向に向かう行動・あり方を模索し続けました。いただいたご縁に光や希望を見つけ、悼みや苦しみを一緒に越えていける関係性を育てていけるようにと願っています。Thank you for your messages with Love, Peace, Freedom and Diversity. Let's keep on sharing our ideas, thoughts, actions, experiences and feelings.



1枚の写真から

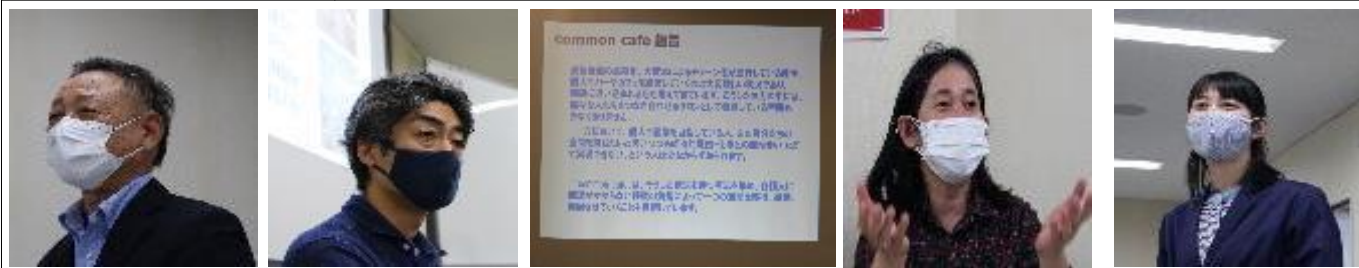
活動概要	一人ひとりの生活で見つけたものを一枚の写真にタイトルやコメントをつけて交流しています。様々な人の感じ方や考え方を知ること、物の見方や考え方を豊かに育てあえたらと思います。お互いの思い入れのある一枚の写真を使って語り合うことを今年も大切にしていきます。
掲載数	159件（2020年度26件、2021年度56件、2022年度77件）
リーダー〈杉岡博幸〉の声	今年も送っていただいた写真や添えられた言葉に刺激を受けることが多くありました。皆さんはいかがでしょう？あなたのつぶやきや感動の一枚が誰かの力になります。対面での「一枚の写真から」も開催予定です。今後も参加していただく皆様と豊かに生きていきたいと思ひます。



1. 多様性を認め合い、お互いを生かし合う社会を育む事業

第12回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks ～Common Caféプロデューサー山納洋さん

開催日時/会場/参加人数	2022年4月23日(土)13時～15時@奈良県文化会館 参加者15人
活動概要	「Common Café」、「Talkin' About」、「Walkin' About」、「六甲山カフェ」、「リュックサックマーケット」、「扇町クリエイティブカレッジ」などの場づくりを実践しておられる山納さんから、「プロデューサーってどんな人?」、「ビジョンを示し、巻き込んでいく力」、「出会いと繋がり」等の視点を聴かせていただきました。18周年を迎えられたCommon Caféの日替わり店主のネリキッチンさんは、ご自身のメッセージと他の日替わり店主さんたちからの山納さんへのメッセージを共有して下さいました。
参加者の声	①アイデアの面白さとそれを実現された実行力に驚きました。②Common Café～so interesting. People with common and different background come together to share their specialities, talents and skills. Such a venue also builds community. Yamano-san has been giving so much love and sharing his time and talent for the good of the people around him. ③ネリキッチンさんのネリさんがCommon Caféの他の曜日の日替わり店主の方々からメッセージを預かってきてくださり、共有してくださり、あたたかい気持ちになりました。
リーダー〈東口千津子〉の声	山納さんは多様な場づくりを通して、多世代の個人がより柔軟に、よりクリエイティブに人生を歩んでいく視点やアイデアやヒントをくださっているように思います。会社員としての生活を続けられながら「人と人が出会う場・繋がる場」を創り続けられるあり方、多様な町を歩かれ多様な文化について学び続けられるあり方は、より豊かなコミュニティづくりの実践にも繋がっていると感じました。



第13回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks ～ダイバーシティ研究所田村太郎さん

開催日時/会場/参加人数	2022年6月18日(土) 13時～15時@奈良県文化会館 参加者16人
活動概要	「多文化共生センター」、「ダイバーシティ研究所」、「社会起業家を応援するビジネスプランコンペedge」、「チャイルドケモハウス」などの設立とコミュニティづくりに力を注いでこられた田村さんから、「自由で寛容な社会」をつくる行動を続けていきたいと思いますというお話を聴かせていただきました。「多様性」と「共生」について一人ひとりの意識を高めていくことの大切さも伝えて下さいました。
参加者の声	① So inspiring speaker. Doing extraordinary things to help people in the community and the country. ②「自由の種を蒔き、寛容の芽を育て続けたい」という田村さんのメッセージに深く共感します。③「できない理由を見つけるのは簡単」「無いものは創る」など、心に響く強いメッセージがたくさんありました。④みんなが困らない社会にするために、自分自身も変化していくようにしたいです。
リーダー〈東口千津子〉の声	多文化共生、ダイバーシティの分野で種を蒔き続けてこられた田村さんは、多世代の多様な背景をもつ一人ひとりに勇気や力を届けてられていると感じました。個人が孤立することのないようにさまざまなコミュニティを育て、お互いが得意なことで助け合い、より良い社会をつくろうと若者たちにメッセージを伝え続けられ、田村さんに続く若手社会起業家が多く生まれてきていることも素晴らしいです。



1. 多様性を認め合い、お互いを生かし合う社会を育む事業

第14回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks ～株式会社フェアトレードコットンイニシアティブ入江英明さん

開催日時/会場/参加人数	2022年8月13日(土)13時～15時@奈良県文化会館 参加者13人
活動概要	インドの子どもたちとコミュニティを応援しながら「国際フェアトレード認証」と「オーガニックコットン認証」のダブル認証の商品を生み出され、世の中がより良い方向に変わっていくように、企業や自治体や教育機関やNPO等と協働・協力関係を育てておられる入江さんから、「フェアトレードで未来をつむぐ」お話を聴かせていただきました。農薬による環境と人への深刻な被害が発生する中、農薬を使用しないオーガニック栽培で安全で安心な仕組みを作ることの重要性もまっすぐに伝えて下さいました。
参加者の声	①「国際フェアトレード」認証された商品を選ぶことは、作り手の生活に安心を保证する協力ができるだけではなく、持続可能な社会作りに参加することでもあると思います。②すべての工程でフェアトレードの認証をクリアする、オーガニックに関しても同様に大変なことですね。③すべてをFTコットン・イニシアティブでする必要はなく、そのきっかけをつくったら、後は大手企業や他の会社が続いてくれて、そして世の中が変わっていけばよい・・・」という入江さんの言葉が印象に残っています。
リーダー〈東口千津子〉の声	「国際フェアトレード認証」と「オーガニックコットン認証」のダブル認証のblue earth green treesのバッグが生まれる背景を詳しく知ることができ、入江さんとインドのコミュニティの生産者さんのご苦労や、サプライチェーンの透明性を保つことの大切さなどについて深く学ぶことができました。フェアトレードで国内外の次世代の幸せを築いていける入江さんの力強い生き方・あり方に感銘を受けました。



第15回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks ～認定NPO法人アクセス野田沙良さん

開催日時/会場/参加人数	2022年10月8日(土) 13時～15時@奈良県文化会館 参加者15人
活動概要	フィリピンの子どもの「生きる力」を応援し、給食のプロジェクトやフェアトレードプロジェクトを現地の方々の主体性を大切に推進されているアクセスの事業について、信頼関係を育て合うコミュニティについて野田さんからお話を聴かせていただきました。アクセスに関わるフィリピンの若者たち・日本の若者たちが共に成長できる環境をつくっておられることも伝わってきました。
参加者の声	①一緒に「生きる力」にアクセスされている活動に共感できることが多々ありました。一枚一枚丁寧に手作りされたフェアトレードのカードには愛がこもっていて働く喜びみたいなものが感じられます。②「人が人として幸せに生きるつながりの豊かさ」という言葉が印象に残りました。③働くこと、働ける幸せを再認識しました。④子どもに安全なものを食べさせたいという親の想いはどんな環境の中でも誰も同じだと思った。
リーダー〈東口千津子〉の声	フィリピンの文化やコミュニティへの理解を深められ、現地のお仲間と率直なパートナーシップを育てておられるあり方が「生きる力」にアクセスすることに繋がっていると感じました。野田さんのまっすぐなメッセージをお聴きしながら、本当の豊かさや幸せについて想い、フィリピンと日本の個人・家族・地域コミュニティのあり方について深く考える機会をいただきました。



1. 多様性を認め合い、お互いを生かし合う社会を育む事業

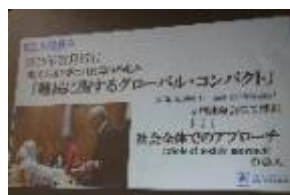
第16回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks ～認定NPO法人AMDA社会開発機構奥田鹿恵子さん

開催日時/会場/参加人数	2022年10月22日(土) 13時～15時@奈良県文化会館多目的室 参加者12人
活動概要	「ホンジュラスのこと、AMDA-MINDSのこと～今日の平和な生活が保障され、明日への希望が抱ける社会の実現に向けて」奥田さんからお話を聴かせていただきました。クイズを通してホンジュラスについて理解を深めた後、妊産婦への健康支援、教育支援、コミュニティ支援など、具体的な事業内容についてお話をしてくださいました。ホンジュラスの皆さんとの信頼関係を育てられている日常も伝わってきました。
参加者の声	①ホンジュラスで女性の生きる権利に取り組んでおられて素晴らしいです。②ネパール・ホンジュラスと各国の人々の状況を肌で感じておられる奥田さんのお話はとても興味深かったです。世界のことを考えられる良い機会でした。③ホンジュラスに新しい産業が生まれたり、起業する若者や女性が増えて、暮らしにより喜びが感じられますようにと、これから心をホンジュラスに向けていきます。
リーダー〈東口千津子〉の声	ドミニカ共和国、ネパール、ホンジュラスの暮らしの中で各文化について体感され、心身の健康を育て合うコミュニティづくりに貢献され、多様な個人の声を丁寧に聴きとられてきたお話を、奥田さんの故郷である奈良でお聴きできるご縁がありたく感じています。毎年の一時期帰国時のお話では各コミュニティの皆さんが自らの意思で行動される姿をあたたく応援される奥田さんのあり方が印象的です。



第17回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks ～特定非営利活動法人国連UNHCR協会芳島昭一さん

開催日時/会場/参加人数	2022年12月17日(土) 13時～15時@奈良県文化会館多目的室 参加者12人
活動概要	「難民問題と私たちにできること」について芳島さんからお話を聴かせていただきました。「社会全体でのアプローチの導入」が必要とされ、自分事として考え、行動していくことの大切さを伝えて下さいました。UNHCR難民高等教育プログラムで学んでおられる大学生は、自分自身に力をつけ、日本で経験を積み重ね、広い視野で世界をみつめ、いずれは母国に貢献したいという想いを語られました。
参加者の声	①難民になりたいと思ってなった人はいないという言葉は胸にさざりました。適切な支援を届けていただけるよう協力し続けたいと思います。②難民の大学生が夢を実現させるために努力を続ける姿は、同世代の日本人学生のモチベーションを向上させることもできると思います。もっと多くの難民学生を日本の大学に受け入れてほしいと思いました。③知る事、広げる事、継続して支援する事・・・大切な事を今日も学びました。
リーダー〈東口千津子〉の声	芳島さんのお話は2020年・2021年・2022年と聴かせていただいています。難民問題の現状についてより多面的に見つめ、理解を深めることに繋がります。自分に何ができるのかを考え、個人として団体として行動し続けようと思います。UNHCR難民高等教育プログラムの大学生は苦しい経験を糧に大きな人間力を育てておられ、強い信念をもって努力を続ける姿が伝わり、とても頼もしく思いました。



1. 多様性を認め合い、お互いを生かし合う社会を育む事業

第18回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks ～一般社団法人手話エンターテイメント発信団oioi岡崎伸彦さん

開催日時/会場/参加人数	2023年1月21日(土) 9時半～10時半@奈良県文化会館多目的室 参加者22人
活動概要	「きこえる人ときこえない人之间にある心のバリアを壊すための手話エンターテイメント」、「バリアは簡単に生まれる」、「バリアクラッシュへの確実な手ごたえ」、「自身を支えてくれた存在」などについて、岡崎さんのお話を聴かせていただきました。oioiのメンバー一人ひとりからの岡崎さんへメッセージにも信頼が溢れ、一緒にバリアクラッシュにチャレンジする日常が伝わってきました。
参加者の声	①岡崎さんの明るさ・負けず嫌い・強さ・前向きさが全身で発信されているのを、私も全身で受け取らせていただきました。②子どもの頃の辛かった事・受け入れられなかった事を、明るく話をされる姿に勇気をもらいました。自分ではとても気になる自分の部分を人は気にしていないというエピソードが印象的でした。③「頑張らなくても楽しいコミュニケーション」が日常に溢れていけば良いなと思います。
リーダー〈東口千津子〉の声	岡崎さんを支える力がどこからきているのか、どんな軸が心の深いところにあるのか、聴かせていただき、私自身も人生や家族や仲間や社会について考え、大きな力をいただきました。ご自身の軌跡を深く振り返り、明確に心に刻まれたことを全身で表現され、一人ひとりの胸に直球のメッセージを届けてくださったと感じます。岡崎さんとの出会い、oioiとの出会いがますます多くの方に広がっていきますようにと祈ります。



第19回種を蒔く人のお話を聴く会/Listening to Seedfolks ～関西きんじょすくいの会 吉田智里さん & kokoroふぁーむ縁 長橋努さん

開催日時/会場/参加人数	2023年2月25日(土) 13時～15時@奈良県文化会館多目的室 参加者19人
活動概要	吉田さんからは「東北との出会い～福島子どもたちを応援する琵琶湖キャンプ」、「未来に手渡したいもの」、「地域のひとりのおとなとして～丁寧に生きる・共にいるよというメッセージ」などについてのお話、長橋さんからは「地域と暮らし～福井県三方上中郡若狭町」、「自然がつくらせてくれている米づくり」、「ペシャワール会～アフガニスタンでの経験」などについてお話を聴かせていただきました。
参加者の声	①お二人の行動力、瞬発力、人とのつながりを大切に生きておられる姿はとても勉強になりました。ふるさと・地域について自分が何に貢献しているか考える機会になりました。②ペシャワール会でのお話をお聴きでき良かったです。アフガニスタンの人々とのやりとりやエピソードが心に残りました。③出会いの大切さに気づかせていただきました。教員として子どもたちに豊かな出会いの機会をつくっていききたいと思います。
リーダー〈東口千津子〉の声	福島子どもたちを琵琶湖キャンプでサポートしてこられた吉田さんのあり方、ペシャワール会でアフガニスタンの人々と共に土や水と深く繋がられた長橋さんのあり方、そして現在、出会いと繋がりを大切に福井県で無農薬のお米をつくりながら、お子さん二人と心豊かに暮らしておられるあり方から、個人・社会について考える機会をいただきました。原子力発電所の近くで子育てをする気持ちと日常も伝わってきました。



1. 多様性を認め合い、お互いを生かし合う社会を育む事業

2020年度/2021年度(2020年4月～2022年3月)第1～第11回種を蒔く人のお話を聴く会

- 第1回(2020年10月17日)岩崎裕保さん、Darryl Takizo YAGIさん
- 第2回(2020年11月6日)奥田鹿恵子さん
- 第3回(2020年12月26日)芳島昭一さん
- 第4回(2021年2月13日)田中啓義さん
- 第5回(2021年3月20日)中溪宏一さん
- 第6回(2021年6月12日)榊原一憲さん
- 第7回(2021年8月28日)杉岡博幸さん
- 第8回(2021年10月16日)福田英子さん
- 第9回(2021年12月11日)芳島昭一さん&RHEP(難民高等教育プログラム)大学生
- 第10回(2021年12月26日)奥田鹿恵子さん
- 第11回(2022年2月26日)伊与田昌慶さん

手話パフォーマンスワークショップ

活動概要	一般社団法人 手話エンターテイメント発信団oioiの陽気なメンバーによる手話パフォーマンスのワークショップ。手指と表情をほぐすためのウォーミングアップを行った後、チャラン・ポ・ランタンの『三百六十五歩のマーチ』の手話歌に挑戦していただきました。みなさんの素敵な表情がとても印象的でした。
協働団体	一般社団法人手話エンターテイメント発信団oioi
リーダー〈岡崎 伸彦〉の声	数年ぶりに手話パフォーマンスワークショップを開催できたことに感謝です。マスク生活が長いと表情を意識することを忘れてしまいがちですが、今回のワークショップを通して、表情を出すこと、そして体全体を使って感情表現することなどの楽しさを感じていただけたなら幸いです。ありがとうございました！



1. 多様性を認め合い、お互いを生かし合う社会を育む事業

ハートフル リーディング/heartful reading

活動概要	人の心に寄り添い、思いやりの種を育てていけるように、ハートフルリーディング・プロジェクトメンバーが「種を蒔く」に朗読を配信しております。
聴き手の声	①日本の四季や文化の感じられる作品の朗読でほっこりした気持ちになります。②厳しい世界情勢の中、朗読はほっとする時間を届けてくれます。③入院中に朗読のおかげで自由に外の世界を飛び回れたように感じました。ありがとうございました。
リーダー〈チコ〉の声	朗読を通じて、皆さんに心温まる時間を楽しんでいただけたら幸せです。



第5回『ROUDOKU』プロジェクト~多様性を聴き合う&感じる

開催日時/会場/参加人数	2022年5月28日(土) 13時~15時@奈良文化会館多目的室 参加者8人
活動概要	一人ひとりの好きな作品(5分以内、言語も自由)を持ち寄り、声に出して読み、聴き合うプロジェクトです。作品を選んだ理由や感じたことを分かち合う時間も大切にします。多様性を楽しみ、自他の中にあるさまざまな要素に気づき、多様な皆さんとの繋がりを育てていきます。
参加者の声	①その方が、どの本を選び、どの部分を読まれるのかが、毎回とても興味深く楽しみです。また皆さんのメッセージからお一人おひとりのあり方や感じ方が伝わってきて、とても豊かな時間になりました。②I enjoyed listening to ROUDOKU of the books we chose. We shared our reflections based on the book being read and we appreciated each one. ③多様性を聴き合う&感じるプロジェクトとしての意味があると改めて感じました。④「心をこめて生きる」「常にゼロベースから」「境界を越えていく」「多様性ということ」
参加者のROUDOKU作品	・「Alone 一個人」・「徒然草第137段」・「暮らしのおへそ」・「さあ陽気にゆこう~私に人生と言えるものがあるなら」高石ともや ・「Blessing Every Day~365 simple devotions for the very young」・「世界がもし100人の村だったら/If the world were a village of 100 people」池田香代子 ・「地球の法則と選ぶべき未来」ドネラ・H・メドウズ



1. 多様性を認め合い、お互いを生かし合う社会を育む事業

第6回『ROUDOKU』プロジェクト～多様性を聴き合う&感じる

開催日時/会場/参加人数	2022年7月23日（土）13時～15時@奈良文化会館多目的室 参加者7人
参加者の声	①皆さんの心のごもったROUDOKUを通して、その方の大切にしているものを共有でき、心が豊かになりました。また、言葉のリズムのもつ心地よさをあらためて感じました。②皆さんの選ばれた本や内容に、自分の選んだ本・内容が重なったり、いろいろなことを思い出したり・・・時間・空間をこえて心を耕される時間となりました。③作品を通して皆さんの考え方や想いを知ることができて素敵な機会でした。
参加者のROUDOKU作品	・「古今和歌集 仮名序」紀貫之 ・「にんげん曼荼羅」 ・「花咲けみちのく地に美れ」 ・「ニジェール物語」 ・「一個人」 ・「心が軽くなるすごいお掃除術」 ・「Ho'okili o Hawai'i」 Bruce Behnke



第7回『ROUDOKU』プロジェクト～多様性を聴き合う&感じる

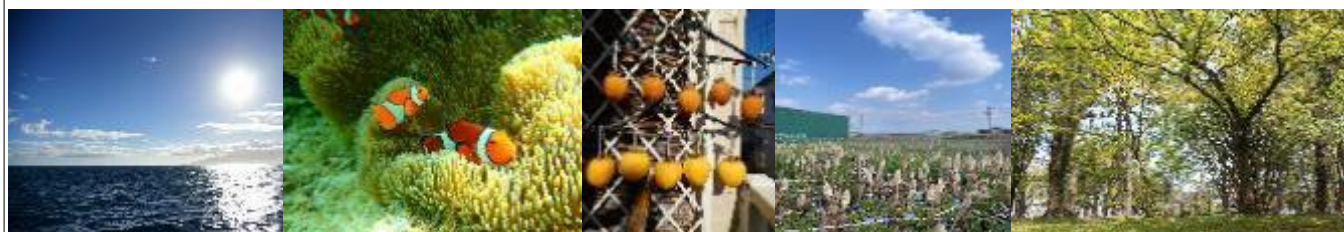
開催日時/会場/参加人数	2022年11月26日（土）13時～15時@奈良文化会館多目的室 参加者10人
参加者の声	①皆さんの選ばれた本に感銘を受けました。真実を見極める目、思いやり、いろいろな美しい思いが皆さんの声と一緒に届いて素敵な時間でした。②愛と学びにあふれた時間をありがとうございました。神野さんのお話の中にあつた「声は心」「息は自分の心」というメッセージが胸に残り、自分の声に感謝しながら朗読を続けていきたいと実感しました。③ことばに心をこめて生きていきたいです。
参加者のROUDOKU作品	・「砂漠の少年」水城雄 ・「私、ジョージア」ジャネット・ウィンター 長田弘訳 ・「100の基本」松山弥太郎 ・「春はあけぼの」枕草子 ・「ねこはしる」 ・「希望のあかり 何のために生まれてきたの？」やなせたかし ・「ふたりはともだち～おてがみ」アーノルド・ノーベル ・「学習する自由」カール・ロジャーズ+H.ジェローム・フライバーグ、畠瀬稔+村田進訳
リーダー〈東口千津子〉の声	第5回～第7回ROUDOKUプロジェクトにご参加下さったお一人おひとりの選択された作品と理由・声・読み方・使用言語などに多様なあり方を感じ、自分自身の内側に豊かな世界が広がっていくのを感じました。また、それぞれに感じたことを聴き合う中で、お一人おひとりの人生の物語にも出会い、気づきや学びをいただく時間となっています。



2. 心の健康を応援し、個人の成長及び健康的な人間関係を促す事業

健康的な日々のために

活動概要	健康的な日々を過ごすために、また健康的な人間関係を育てていくために、30の視点をシンプルな表現で繋がる皆さんにお届けしました。お一人おひとりに役立つ視点を見つけていただき、活かしていただくことで、それぞれのコミュニティもより健康的な方へ向かっていくことを祈っています。
参加者の声	①自分自身で日常の良いリズムをつくるために30の視点が参考になります。②コロナ禍も現在も健康のために必要なことは同じだと気づきました。③とても疲れている友だちに、HPのこのページを伝えたら「自分のできることが見つかった」と言ってもらえました。
リーダー〈東口千津子・小原祥子・松本由季子・矢倉真由子〉の声	コロナ禍で経験したことを忘れずに、一緒に免疫力を高めていきましょう。厳しい世界情勢の影響を受ける日々、不安や孤独や怒りや混乱を感じておられる方々の声をお聴きし心身の健康を応援する中で、お一人おひとりができることを見つけていただくと嬉しいです。



子育てカフェ

活動概要	2022年度は毎月第4金曜日を基本に、以下の12回を開催いたしました。4/22、5/27、6/24、7/22、8/25、9/23、10/21、11/25、12/23、1/20、2/24、3/24 「子育てカフェ」は2020年度から始まり、2022年度末までの間に、24回開催させていただきました。2023年度も毎月第4金曜日に開催予定です。
参加者の声	①嬉しいこと、悲しいこと、いろんなことを話せる人がいて、そんな場所があることが大きな安心を与えてくれることなんだと改めて感じました。②気のおけない人との日常の些細なできごとを聞いてもらったり、聞いたり、心安らぐ大切な時間でした。リフレッシュしてしっかり充電できました。③前回に引き続きお天気は雪でした。でも中は暖かく皆さんとお話していると身も心も温まる空間で贅沢な時間を過ごさせていただきました。時には反省する事もありますが、周りの声を聞くとホッとしたりします。親も子も心身共に健やかに過ごせるようにまた頑張っていきたいと思いました。
リーダー〈矢倉真由子〉の声	「子育て」は親の手が必要な時期というイメージがありますが、親の手を離れた後も関係性が変化しながら続いているのだと感じます。「子育てカフェ」の時間には、言葉では表現しきれない親子の繋がりを、深く感じる瞬間がたくさんあるように思います。「子育てカフェ」をいつもあたたかい空間にしてくださる参加者の皆様に、心より感謝しております。



2. 心の健康を応援し、個人の成長及び健康的な人間関係を促す事業

セルフケアヨガプロジェクト

開催日時/参加人数/ 会場	2023年3月25日(土)13時~15時、5人 奈良県文化会館
活動概要	ヨガを通して心と身体つながりを感じ、本来の自分の心と身体の声聴くことを目的として、セルフケアヨガを実施しています。自分自身を見つめて向き合うことにより、体の歪みや違和感・心の揺れや乱れに対して手当をすることで、心と身体が調和していく心地よい時間を参加者の方々と共有しています。
参加者の声	①普段全く体を動かす行為をしていなかったので、とても良い機会でした。終わったあとは、体が少し軽くなったような気がして気持ち良いです。②はじめてのヨガ体験で呼吸の仕方など難しいこともありましたが、スッキリしました。③今後も少しでも体を動かす時間をつくりたいと思いました。
リーダー〈松本由季子〉 の声	セルフケアヨガでは、人と比べたりポーズをとるといふかたちにこだわることなく、無理をしないでヨガに取り組むことによって、一人一人が自分に向き合い、自分で自分の心や身体を調整する時間を重ねていきます。ヨガを通して自分を観察し、自分の心や身体の変化を感じられる練習を継続していきたいと考えています。



ひとときカフェ

開催日時/参加人数/ 会場	第5回2022年5月28日(土)15時~17時 5人、第6回7月23日(土)15時~17時 6人、 第7回11月26日(土)15時~17時4人、第8回2023年3月25日(土)15時~17時6人 奈良県文化会館
活動概要	ご参加の方々の近況や、その時の想いをうかがうことなどからスタートし、お互いが紡ぐ言葉をじっくり聴き合うひとときです。それぞれに重ねておられるご自分の時間(過去や未来)を行き来しながら、今ここで出会っている方々と想いを行き交わせる温かな時間と感じています。
参加者の声	①出会うメンバーが前回と同じであっても、その日その時に感じることは一人ひとり異なっており、その瞬間の出会いを大切に、まっすぐに声を聴き合えるといいなと思います。②どんな言葉も受け止めてもらって自分の内面の話ができて癒されました。③親を思う事は皆同じ、でもそれが負担になったり、自責になったりせず、自分の時間も大切にしながら、互いに少しでも笑顔でいられる距離感で接していければと思います。
リーダー〈小原祥子〉 の声	人の存在の温かさや出会いの喜びを感じながら、自分の経験や想いを安心して言葉にできる場として、今後も回を重ねていけることを願っています。お一人おひとりの想いのこもった言葉が温かく行き交うひとときに、参加してくださる方々が少しでも力を得ていただければ幸いです。



3. SDGsについての理解を深め、SDGs貢献団体を応援する事業

2020年度/2021年度(2020年4月～2022年3月) 第1回～第8回SDGs勉強会

- 第1回：2020年10月17日「NSEW(Natural, Social, Economic, Who decides?)」
- 第2回：2020年12月26日「15年前の世界と2030年の世界を考える」
- 第3回：2021年2月13日「人権と多様性についてのロールプレイで考える」
- 第4回 2021年6月12日「フェアトレードについて」
- 第5回 2021年8月28日「フェアトレードⅡについて」
- 第6回 2021年10月16日「コンビニについて」
- 第7回 2021年12月11日「核(兵器)について」
- 第8回 2022年2月26日「豊かな社会にとって大切なこと」

第9回 SDGs勉強会 『子どもの権利条約(CRC)について考える』

開催日時/会場/参加人数	2022年4月23日(土)14時30分～16時@奈良県文化会館多目的室 参加者 13人
活動概要	1979年「国際子ども年」の協賛歌ビューティフル・ネーム - YouTubeでプログラムを始めました。CRCの基本(生存の権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利)の解説の後で、スーザン・ファウンテンによるユニセフの『CRCを学ぶための実践ガイド 私の権利みんなの権利(原題It's Only Right!)』の「活動5 さまざまな権利のつながり」のワークをおこないました。CRCで大事なことは、保護の対象としてだけではなく、一人の人間として認め、自己決定権を含めた権利の主体としての子どもという認識です。
参加者の声	①子どもの声を聴くことを大切に、その時その時の状態を丁寧に見つめ続け、子どもが安心して気持ちを表現し、望む方へ歩んでいけるように応援していきたいと思います。②紛争下の子どもたちのことを思うと心がいたみます。どの国の子どもも安全な場所で笑顔で過ごせるようにと祈ります。③Mostly children are helpless and afraid often until someone helps till the end.
リーダー(岩崎裕保)の声	ソマリアが2015年11月に196番目の批准国となったので、まだ批准をしていないのは米合州国のみです。日本は早くも1951年に「児童憲章」を制定していますが、日本の子どもの現状は、この憲章から見てもずいぶんかけ離れてしまいました。政府はCRCを批准(1994年)するにあたって国内法や制度の改正は不要だとしましたが、1979年に発効した女子差別撤廃条約では国籍法の改正や男女雇用機会均等法の成立、家庭科教育の見直しといったことを5年以上かけて整備したうえで、1985年に批准をしたのでした。そして「こども庁」構想は「こども家庭庁」となりましたが、これもCRCが十分に認知されていないことのあらわれではないでしょうか。



3. SDGsについての理解を深め、SDGs貢献団体を応援する事業

第10回 SDGs勉強会 「国際協力/援助について考えてみようⅠ」	
開催日時/会場/参加人数	2022年6月18日（土）15時～16時30分@奈良県文化会館多目的室 参加者 16人
活動概要	<p>「お互いさま」「助け合っていこう」という姿勢や行動が国境を越えたときに「国際協力」になるのでしょうか。</p> <p>今回は、『「援助」する前に考えよう』（開発教育協会、2006年）の第1部・ワーク1「一枚の看板」をおこないました。タイのチェンマイに旅行に来た人が2泊3日のトレッキングに参加し、学校の横に日本語と英語で「この村の学校はお金なくて困っています。あなたの寄付があれば、もっと子どもたちに教材や道具を買ってあげられます。どうかあなたの10ドルをこの学校のために寄付してください。アイコ・ナカムラ」という看板を見つけました。考えるべき課題は、「寄付をするか、するとしたらいくらか」「アイ子の活動をどう評価するか」「アイ子の活動をよりよいものにするには何が要るか」です。</p> <p>このワークを通じて、村の基本的な情報が十分でないこと、村人がどのような意見を持ち、ほんとうに支援してほしいと思っているのかということが見えてきました。</p>
参加者の声	<p>①何かを判断する時には、お互いの背景を知り、何を大切にしている人なのか、どんな目的のために動いている団体なのか、率直に尋ね、理解を深めていくことが大事だと思う。②寄付をする時には、その団体のミッションや事業実績、代表者やメンバーの考え方と実践を知ることが大切だと思います。③支援や寄付は必要性があり、適切なものをすべきだと思います。</p>
リーダー（岩崎裕保）の声	<p>リーダーの声＝このワークでは参加者がいくらのお金を寄付するかではなく、看板を立てたアイ子がかつてこの村に20万円を寄付したということが問題です。20万円という額は、たとえそれが善意であったとしても、村の予算に匹敵するような金額となれば、いろいろな影響が出てくると考えられます。継続的で実効あるものにするためには、いろいろ考えなければならないことがあるでしょう。さもないと、成果が上がらないばかりか、村に迷惑をかけることにもなりかねません。</p>




3. SDGsについての理解を深め、SDGs貢献団体を応援する事業

第11回 SDGs勉強会 「国際協力/援助について考えてみようⅡ」

開催日時/会場/参加人数	2022年8月13日(土)15時～17時@奈良県文化会館多目的室 参加者 10人
活動概要	引き続き「国際協力/援助」がテーマで、『「援助」する前に考えよう』の2つ目のワーク「再びバーン村へ」をおこないました。アイ子といっしょにバーン村に行って3日間の調査をすることになり、その話し合いのロールプレイをしました。続いて「開発とは(何か)」というワークで、9つの開発の概念のランキングをおこないました。その後、地球の現状についての解説をしました。最後に、カナダの先住民族クリーのことばを読んで、勉強会を閉じました。 Only when the last tree has died & the last river has been poisoned & the last fish has been caught, will we realise that we cannot eat money. (木が枯れ、川が汚され、魚が取れなくなって、やっと私たちはお金を食べて生きていくことができないことに気づく)
参加者の声	①支援内容についての決定は非常に重要であり、様々な立場の方の意見を聴き、まとめていくプロセスがとても複雑なことも学びました。②援助する側が主役になってはいけない。必要とする人々の話に耳を傾ける。③コミュニティの構成メンバー、多様な個人の声に耳を傾け、丁寧にニーズを確かめること、多様なニーズにフェアに対応していくことが大切だと思います。
リーダー〈岩崎裕保〉の声	村に暮らすさまざまな人びとがいて、それぞれの課題を持っているのですが、外部者が短期間でそれぞれのニーズを聞き出すのは大変難しいことです。話し合いに参加したのは村の主流に属する人で、とくに弱い立場の人たちの意見は反映されない可能性が低くありません。このような調査の仕方では、村の人びとの本当のニーズを知ることは至難です。歴史的には世界貿易が始まったころから、貧しいところからどんどん吸いあげて豊かなところがますます太ってきたのです。こうして蓄えた富の中からGDPの0.3%を上から下に垂れ流すODAでこの格差を埋めることはできるのでしょうか・・・



3. SDGsについての理解を深め、SDGs貢献団体を応援する事業

第12回 SDGs勉強会 「プラスチックとゴミとリサイクルについて考えてみよう」	
開催日時/会場/参加人数	2022年10月8日（土）15時～17時@奈良県文化会館多目的室 参加者 13人
活動概要	奈良公園の鹿の中には、プラごみを食べて死んでしまうものがあります。これは鹿の問題ではなく人間の問題です。 今回も開発教育協会（DEAR）発行の『プラスチックごみ：開発教育アクティビティ集4』を使って、クイズ形式でプラスチックについて学びました。軽くて丈夫なプラスチックは暮らしを便利で豊かにしてくれましたが、安くて加工しやすいので大量に生産され消費され廃棄されます。軽いので自然界に流出しやすく、耐水・耐熱・耐油性があるので丈夫で自然分解されにくいのです。自然界にはありえない方法で人工的に化学合成されたプラスチックが分子レベルまで分解されるのにかかる時間は、正確には分かっていません。
参加者の声	①プラスチックに囲まれた生活の中であらためて無責任な消費・廃棄をしていることを実感しました。積極的に3R(Reduse, Reuse, Recycle)+3R(Repair, Refuse, Rethink)を実行していきたいと思います。②本当に必要な物を見極め、便利な物でも必要でなければ無駄にならないように購入しないように気をつけたい。③プラスチックの問題に取り組むのは、個人で行うのは難しいレベルに来ていると感じました。
リーダー（岩崎裕保）の声	なによりも廃プラスチックの総量を減らすことがポイントです。英国ニューカッスル大によれば、すでにわたしたちは毎週クレジットカード1枚分（約5gr）のプラスチックを取り込んでいるのだそうです。衣類から抜け落ちる化学繊維も化粧品に含まれるマイクロプラスチックも、わたしたちの身の回りに常にあります。こうしたものが人体や生物の健康にどのような影響を及ぼすかについては、まだ明らかになっていません——私たち自身が実験材料なのです。 日本社会ではre-cycleという用語が定着してはいますが、それ以前に2つのre-があります。re-duceとre-useです。まずは、減らす、そして再利用する、それでも捨てなければならないものをre-cycleするのです。これを3Rといますが、re-fuse(断る)とかre-pair（修理する）を加えて5Rとなります。そしてもう一度よく考える（re-think）ことが求められています
	



3. SDGsについての理解を深め、SDGs貢献団体を応援する事業

第13回 SDGs勉強会 「ファッション・服について考えてみよう」

開催日時/会場/参加人数	2022年10月22日（土）15時～17時@奈良県文化会館多目的室 参加者 12人
活動概要	<p>アクティビティの前に、「服を買うとき、何を重視している?」「新しい服を買う頻度はどのくらい?」「着ないまま、ダンスやクローゼットにしまったままの服が何着くらいあるか把握している」などを話し合いました。</p> <p>開発教育協会発行の『服・ファッション 開発教育アクティビティ集5』（2022年3月）の中から、アクティビティ「服クイズ」をおこないました。次に、原料・素材の生産から始まって着られなくなるまでの「A:服の一生カード」、水の利用や運搬のエネルギーなどの「B:環境カード」、そして児童労働や技術習得、健康被害などの「C:社会・人権カード」をみて、Aの工程でB,Cの該当するものをマッチしました。</p>
参加者の声	<p>①服一枚でも原材料から捨てる時までの流れの中に、たくさん問題があることに気づき、少しでも気をつけながら服を買い、着て、洗濯し、手放すことをしたいと思います。マイクロプラスチックが流出しているのには大変驚きました。</p> <p>②服が多くつくられ過ぎていて、安く売られていること、簡単に捨てられることをやめないといけないと強く感じる。1枚の服が捨てられ、燃やされる際に生まれるCO2の量は深刻な環境問題に繋がっている。③服が生まれて、着て、次にどう生まれ変わるのかまで、責任を持って考え、仕組みを作っている会社やブランドを選び、買い物をしていく必要があると感じる。</p>
リーダー〈岩崎裕保〉の声	<p>リーダーの声 = 服を水で洗濯し、自然乾燥したときのCO2排出量は1回あたり約73gですが、乾燥機を使うと約1019gと約13倍にもなり、温水選択するとさらに排出量は増えます。綿花は世界で最も農薬を消費する作物で、全耕作地の2%の面積に全世界の殺虫剤の24%と全農薬の11%を使用しており、労働者や周辺の住民に健康被害を及ぼしています。以下の動画も参考になさってください。</p> <p>ファストファッションが環境に与える影響を解説 - YouTube 映画『ザ・トゥルー・コスト ～ファストファッション 真の代償～』予告編 - YouTube</p>
	



3. SDGsについての理解を深め、SDGs貢献団体を応援する事業


第14回 SDGs勉強会 「沖縄から考える平和」

開催日時/会場/参加人数	2023年2月25日（土）15時～17時@奈良県文化会館多目的室 参加者 16人
活動概要	<p>京都・修学院にある関西セミナーハウスの開発教育研究会の出版物『身近なことから世界と私を考える授業Ⅱ』（明石書店、2012）にある「沖縄から考える平和」の中の〈シミュレーション「あなたの運命は？を通して「強制集団死」を考える〉をおこないました。</p> <p>1945年4月1日に米軍が上陸した沖縄本島中部の読谷村にあるチビチリガマとムシクガマ（ガマとは自然壕のこと）での出来事です。チビチリガマでは住民の「集団死」が起こり、一方のムシクガマではそのような惨事はありませんでした。対照的な運命をたどった2つのガマでどのようなことが起こったのか、ガマに逃げ込む人になって追体験をしました。</p> <p>参加者は2つのガマの様子を聞き、何を持って行くかを考え、どちらかのガマを選びます。</p> <p>より詳しいガマの中の状況が知らされて、運命が決まっていきます。</p> <p>参考資料：生と死を分けた二つのガマ（ユンタンザミュージアム提供） - YouTube このワークの前には、沖縄のことに思いをはせるために「うちなークイズ」をおこないました。</p>
参加者の声	<p>①一つひとつの判断をすることは本当に難しいし、どれが正しいのかもわからない。けれど、実はそれこそが「生きる」ということなんだなあ感じました。「生きる」ことがどれくらい難しいことなのか考える良い機会となりました。</p> <p>②沖縄の人々の持ついたみを想いました。いろいろな立場にある人のことを思い、行動していけるようになりたいと思います。③単なる観光地としてではない知るべき沖縄の大切な部分について学ぶことができ良かったです。</p>
リーダー〈岩崎裕保〉の声	<p>リーダーの声 = 哲学者・高橋哲哉は『犠牲のシステム 福島・沖縄』（集英社新書、2012）で植民地としての沖縄は福島を照射していると書いています。そして、「日本政府が認めなければ米軍はそこにいることができないのだが、その日本政府の政策を是認し、支えているのは日本国民である。…沖縄を植民地支配しているのはつまり日本人（ヤマトの日本人）だということにならざるを得ない」と（きわめて真つ当なことを）言っています。そして、「沖縄人からの問いかけに対して、日本人は沈黙し答えないでいさえすれば、植民者としての既得権益を維持することができる」という趣旨のことを野村浩也の『無意識の植民地主義——日本人の米軍基地と沖縄人』（御茶の水書房、2005）から引いています。</p> <p>SDGsがビジネス用語になってしまったかの現状に埋没することなく、“Leave No One Behind”というSDGsの根っこを見つめる時、沖縄の〈やまとんちゅうへの問いかけ〉に、沈黙しないでいたいとの思いを強く覚えます。</p>



3. SDGsについての理解を深め、SDGs貢献団体を応援する事業

フェアトレードプロジェクト

活動概要	2021年度4月からblue earth green treesロゴ入りエコバッグ（国際フェアトレード認証&オーガニックコットン認証）の販売を開始し、インドの子どもたちとコミュニティを応援しています。2023年3月末時点でのバッグの販売数は累計でショルダートート93個、ベーカーリートート58個、ランチトート78個、マルシェバッグ59個の合計288個、売上額は517,000円です。同バッグの制作をお願いしているフェアトレード コットン イニシアティブ/SCOOの代表取締役 入江さんには2022年8月に奈良県文化会館多目的室で、インドの綿花農園で働く人々やフェアトレード制度を通して建設された学校で学ぶ子どもたちの様子についてもお話を聴かせていただきました。
バック愛用者の声	①生(き)なりとはこんな素敵な色かと思いました。②We are using 'blue earth green trees' fairtrade bags in California. We like these bags a lot! ③It's so lovely and I use it when I go shopping in Melbourne. ④スポーツジムでマイボトルやタオルなどを入れて使っています。丈夫でちょうどいい大きさです。⑤ランチトートをプレゼントしてもらいました。ずっと大切に使います。⑥マルシェバッグはパンと焼き菓子にピッタリのバッグです。⑦ ショルダートート大活躍です。生地がしっかりしていて、すごく使いやすいです。
リーダー〈尾松貴美〉の声	日頃からフェアトレードプロジェクトにご協力いただき、ありがとうございます。国際フェアトレード認証&オーガニックコットン認証バッグは、インドの綿花農園にとって大切な収入源であり、地元の小学校建設などインフラ整備にも繋がります。身近なエコバッグを通して、これからも「フェアトレードについて知る・考える・生活に取り入れる・周りの方にも知ってもらう」という輪を皆さんと一緒に広げていけたらと思います。引き続きどうぞよろしくお願い致します。
	

4. 同一の目的を持つ団体と協力・協働する事業

手作りマスクを届けようプロジェクト

活動概要	2022年10月22日開催：『第16回種を蒔く人のお話を聴く会 / Listening to Seedfolks~認定NPO法人AMDA社会開発機構奥田鹿恵子さん』にて、奥田鹿恵子さんに手作りマスク150枚をお渡ししました。ホンジュラスにて母親学級や産婆研修等で配布をしていただき、とても喜んでいただけたとのことです。2022年度は73枚の手作りマスクをお預かりしました。活動開始よりのお預かりマスク数は2606枚、お届けマスク数は2493枚です。
協力団体	特定非営利活動法人 AMDA社会開発機構（AMDA-MINDS）
ご協力者の声	今回の会（ホンジュラスについて）では、手作り布マスクと布ナプキンを追加でご寄付いただきました。布マスクづくりには新しいメンバーの方々をご参加くださったとのこと、心よりお礼を申し上げます。皆様の想いととも、事業地の人々へ届けたいと思います。
参加者の声	コロナ禍で広がった手作りマスクプロジェクト、今も必要な人に届けられることが嬉しいです。
リーダーの声	コロナとともに丸三年のこのプロジェクト。「今できることをやりたい」というご協力者の皆様の気持ちとあたたかさ、輪のひろがりにつれられたことをたいへん嬉しく思います。



4. 同一の目的を持つ団体と協力・協働する事業

手作り布ナプキンを届けようプロジェクト

活動概要	NPO法人DAREDEMO HERO様「フィリピンの女性の権利と向上（風に立つライオン基金事業）」への協力として、現地の女性が自ら布ナプキンを作成する支援のため、現地のスタッフ対象の布ナプキンオンラインWSを実施しました。また、AMDA-MINDS様の事業実施国ホンジュラスでも、母親学級や産婆研修にて、布ナプキンをご活用いただいております。
協力団体	特定非営利活動法人AMDA社会開発機構 NPO法人DAREDEMO HERO
ご協力者の声	家族5人以上が月1万円以下で生活するセブの最貧国地区では、女性は生理用品を購入することができません。汚れた生理用品を長時間使ったり、不衛生な布をあてて対処するしかないため、貧困層の女性は様々な感染症や疾患に悩まされています。布ナプキンが活用されるようになれば、これらの衛生問題が解決するだけでなく、自分たちの力で生きる力をつけ、そこから抜け出すための知識やスキルをつけることが大切です。(DAREDEMO HERO)
リーダー〈松本由季子〉の声	手作り布ナプキンやキットを届け、オンラインWSを実施したことで、途上国の女性が健康や女性の権利について考え、自ら布ナプキンを作成する活動に繋がりました。今後も、手作り布ナプキンを届けようプロジェクトが、途上国の女性の衛生環境の改善に寄与できるように継続していきたいと思っております。



みんなで取り組む『難民の皆さんと進む20億キロメートル』プロジェクト

活動概要	国連UNHCR協会の取り組みに賛同し、難民・避難民の皆さんと進むプロジェクトを2021年1月18日にスタートしました。2023年3月現在、個人・団体で「歩いた」「走った」「自転車に乗った」「泳いだ」距離は153,855.202kmとなりました。国連UNHCR協会に報告し、ウェブサイト合計距離を表示していただいております。難民・避難民の皆さんの安全・安心・健康を願い、私たちも心身の健康を意識した日々を過ごしていくことを心がけていきたいと思っております。
協働団体	特定非営利活動法人国連UNHCR協会
リーダー〈ルミカ〉の声	厳しい環境下であっても、まず自分自身の健康を意識しましょう。そして「歩き」「走り」「自転車に乗り」「泳ぎ」、難民・避難民の皆さんの安全・安心・健康を願いましょう。ひとりの距離は短くてもみんなの距離を合わせるとすごい距離になります。難民・避難民の皆さんを想い、自然を感じながらそれぞれのペースで継続していきましょう。



特定非営利活動法人国連UNHCR協会 芳島昭一様より



平素よりUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の難民援助活動にご関心をお寄せいただき誠にありがとうございます。難民・国内避難民の方々が置かれた窮状にお心をお寄せいただき、2022年度におきましても継続的にお力添えいただきましたこと、心より感謝申し上げます。ロシアのウクライナ侵攻やトルコ・シリア大地震等、紛争や迫害、大規模な自然災害等により住み慣れた故郷を追われ、難民・国内避難民等とならざるを得なかった人々の数は日本の人口に迫る約1億1千万人となり、この瞬間も大変厳しい避難生活を送られています。そんな中、貴団体からはこれまでのご支援に加え、ウクライナやトルコ・シリア大地震の被災者の方々が置かれた窮状にもお心をお寄せいただき、大変温かなご寄付を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。皆さまよりお寄せいただきましたご寄付は、それぞれの支援活動の現場にお届けし、避難生活を送られている方々が前を向いて生きていくために必要な活動に活用させていただきました。今後ともお力添え賜れましたら大変ありがたく存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

〈 寄付先からのメッセージ 〉

国連の難民援助活動に協力したい。そのための公式支援窓口です。国連UNHCR協会
UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は1950年に設立された国連の難民支援機関です。紛争や迫害により故郷を追われた難民・避難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に向けて働きかけています。1954年と1981年にノーベル平和賞を受賞。スイス・ジュネーブに本部を置き、約135か国で援助活動を行っています。この国連の難民支援活動を支えるため、広報・募金活動を行う公式支援窓口が、国連UNHCR協会です。皆様の温かいご支援に心より感謝を申し上げます。



難民を守る。難民を支える。
国連UNHCR協会

特定非営利活動法人 AMDA社会開発機構 山上正道様より

AMDA社会開発機構への継続的なご支援に対し、心より感謝を申し上げます。2022年度も多大なご支援をいただき、誠にありがとうございました。

子育てカフェを通じたミャンマーへの支援は、2020年の春から始まったコロナ禍に加え、翌年2月の政変と非常事態宣言発令（いままも続いています）によって筆舌に尽くしがたい困難の渦中におかれている現地の人々にとって、大きな心の支えになりました。また、駐在スタッフの一時帰国にあわせて開催していただいた「種を蒔く人のお話を聴く会」で現地の報告をする機会を得たこと、そして、それを通じたホンジュラスへの支援についても、深く感謝しています。これらのご支援により、保健衛生や農業、教育、生計向上など、SDGsが掲げる目標達成に向けた、さまざまな活動に取り組むことができました。

手作りの布マスクのご提供も、大変ありがたいと感じています。長期にわたるコロナ禍の中、マスク着用が必須となる地域もあり、洗って繰り返し使うことのできる布マスクは、現地の人々に大変重宝されています。今後とも、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人AMDA社会開発機構（アムダマインズ、AMDA-MINDS）は、人づくり村づくりを通じ、世界の貧困地域において暮らしの改善に取り組んでいる認定NPO法人です。現在、アジア・アフリカ・中南米で、保健、水と衛生、農業、教育、生計向上など、SDGsの達成に向けた社会開発プロジェクトに携わっています。日本国内では、国際理解教育や企業連携を通じた社会教育を推進しています。



株式会社フェアトレードコットンイニシアティブ 入江英明様より

いつもフェアトレードコットンのエコバッグをご使用いただきありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、2022年8月に修学旅行以来の訪問となる奈良にて、多くのみなさまに直接フェアトレードコットンについてお話をさせていただき、わたくしにとって記念すべき年となりました。フェアトレードやオーガニックコットンについて、新たな意義を見出していただけたら嬉しく思います。特にフェアトレードはサプライチェーンを見える化し、米国、イギリス、そしてドイツで法整備が進む「人権デューデリジェンス」に大きくかかわってきます。児童労働や現代奴隷の問題を多くの人たちに知ってもらい、解決につなげていくために、これからもblue earth green treeのみなさまとともに活動してまいります。



フェアトレードで建造された学校の笑顔の子どもたち

特定非営利活動法人 関西NGO協議会様より

主に関西に活動拠点を置くNGOが全国・世界のNGO/CSOと連携を強め、NGO/CSO同士のネットワークを形成し連帯を促進することで、それぞれの活動をより充実・発展させることを目的としたネットワーク型の国際協力NGOです。現在、41の加盟団体のほか、大学や企業、個人の会員によって活動を支えていただいています。

2020年に加盟いただきましたblue earth green treesの皆さまとは、地域からSDGsを推進・達成する大切なパートナーとして、様々な活動をご一緒できることを楽しみにしています。

どうぞこれからもよろしくお願いたします。

関西NGO協議会（代表理事 三輪敦子 事務局長 栗田佳典（2022年4月～））

<https://kansaingo.net/index.html>



メッセージを下さったご協力団体様・協働団体様に加え、多くの個人の皆さま・団体の皆様がご協力くださいました。国内外の繋がるお一人おひとりに心より感謝申し上げます。

【ご協力者】

明石壮一、明石結衣、明石優花、明石利津子、明石利奈、明石和奏、浅香保ルイス龍太、天沼耕平、Arisa、有吉相陽、有吉真知子、有吉光彦、Masami ISHIKAWA、石黒修、石田須美子、石田美加、井上恭子、今中健太、今中順子、今中徹也、入江英明、入部英則、入部克子、伊与田昌慶、岩崎裕保、Jeniffer WEISS、内山順子、永立昌利、大河戸章代、大塚悦子、大西 弘美、大西芳子、岡田学、岡本幹子、奥田鹿恵子、尾関真理子、乙倉恵子、小幡浩次、勝浦隆晴、加藤おりは、加藤久子、Kazumasa、金田伊佐子、河合良成、河内崇典、川口結花、川島彰充、川野裕満子、菊池慶一、木村直子、桐山有希子、久保田至、久保田葵、Lito CRUZ、小池泰久、小浦理恵、小寺敦子、小西友貴、Iris SAITO、Kayo SAITO、榊原一憲、阪本美知子、佐藤可奈子、佐藤玉恵、佐藤嘉正、神野 恵子、新川修一、Suzu、関原深、高橋智子、高橋美和子、田口淳子、ダシルバニクソン、ダシルバハンナ、ダシルバ久恵、田中茜、田中恵子、田中葉月、田中人美、田中眞弓、玉井史朗、為則朗子、田村太郎、Danley DUNCAN、Chada、陳イーウェン、轟木久美子、友田智子、Stuart NAGO、中溪宏一、中司年音、中野加奈、長橋秋楓、長橋弦生、長橋努、中村和美、中村正美、西井優嘉、西方千晶、西方穂積、西崎隆、西別府直美、西村馨、西村仁美、野田佳代、野田紗良、能島裕介、野近和夫、橋本工三、長谷川明日香、長谷川聖仁、長谷川聖夢、長谷川泰生、長谷川愛生、畠瀬直子、畑中敦子、畑中康宣、塙綾夏、原田美智、東口健、東口洋史、菱田隆子、Armin PITHAWALA、福西真実、古野茂実、Dana PEDERSON、波々伯部恵子、Maki、Masataka、松井治、松井友美恵、松木俊明、的場宏純、Athena MARINI、丸山太郎、丸山由美子、John MICHELL、水科純子、水野行範、南伊吹、南和宏、南孝良、南裕子、宮内純子、宮崎礼子、宮脇聡子、向谷仁美、Felicity MAY、森田真理子、Darryl Takizo YAGI、八尾芳樹、安田真由美、安田美津子、山上正道、山渕啓子、山村一彦、山本オリビア、山本かれん、山本花恋、山本ベネディクト、山本昌彦、芳島昭一、吉田早智子、吉田智里、吉田正夫、Anders LUNDQVIST、Rie、りゅうじ、りょーじ、Ryoto、ルミカ、若林暁子、若林訓雄、若林さくら、若林優太、渡剛、“わたぼうし”の皆様、匿名希望の皆様



【ご協力団体】（敬称略）

認定NPO法人アクセス、特定非営利活動法人あつとすくーる、
特定非営利活動法人AMDA、特定非営利活動法人AMDA社会開発機構、
ECC社会貢献・国際交流センター、石さん家、ISLA Japan Travel、
五ふしの草、いりべ歯科医院、株式会社インサイト、
特定非営利活動法人edge、音楽劇団あかねこフレンズ、
Guerneville School District、特定非営利活動法人関西NGO協議会、
関西人間関係研究センター、Gippsland Emergency Relief Fund、
憲法絵本と語りの会、国際環境NGO 350 org.Japan、
特定非営利活動法人国連UNHCR協会、心と関係性の相談室「Re」、
kokoroふあーむ縁、common cafe、
ゴスペル☆IKOMA、GCC Kidsインターナショナルスクール、
JICA奈良デスク、一般社団法人手話エンターテイメント発信団oioi、
株式会社新踏社、Stewards of the Coast and Redwoods、
一般財団法人ダイバーシティ研究所、太平楽美容室、
特定非営利活動法人DAREDEMO HERO、
一般財団法人たんぽぽの家、Think Of JAPAN While Knitting 関西、
dawn、ナイロビ日本人学校、中島大会計事務所、奈良市立二名中学校、
奈良市立若草中学校、奈良市立若草中学校区地域教育協議会、
一般社団法人ニジェール物語製作委員会、ネリキッチン、
登大路総合法律事務所、ハートフルリーディング、葉音、
株式会社フェアトレードコットンイニシアティブ、
foo stitch、Boys and Girls Clubs of Sonoma-Marin、
特定非営利活動法人防災Hand of All、特定非営利活動法人Homedoor
もりわきファッションスクール、Wildlife Victoria、
YAO教育コンサルタント・エンパワーメント研究所、
社会福祉法人わたぼうしの会たんぽぽ生活支援センター、
匿名希望の団体様



寄付報告

◆認定NPO法人AMDA社会開発機構 (AMDA-MINDS) ミャンマー事業			60,000 円
第13回子育てカフェ	2022年 4月22日	5,000 円	
第14回子育てカフェ	2022年 5月27日	5,000 円	
第15回子育てカフェ	2022年 6月24日	5,000 円	
第16回子育てカフェ	2022年 7月22日	5,000 円	
第17回子育てカフェ	2022年 8月26日	5,000 円	
第18回子育てカフェ	2022年 9月23日	5,000 円	
第19回子育てカフェ	2022年 10月21日	5,000 円	
第20回子育てカフェ	2022年 11月25日	5,000 円	
第21回子育てカフェ	2022年 12月23日	5,000 円	
第22回子育てカフェ	2023年 1月27日	5,000 円	
第23回子育てカフェ	2023年 2月24日	5,000 円	
第24回子育てカフェ	2023年 3月25日	5,000 円	
◆認定NPO法人AMDA社会開発機構 (AMDA-MINDS) ホンジュラス事業			37,000 円
第5回ROUDOKUプロジェクト&第5回ひとときカフェ	2022年 5月28日	16,000 円	
第16回種を蒔く人のお話を聴く会	2022年 10月22日	21,000 円	
◆認定NPO法人AMDA			88,000 円
第6回ROUDOKUプロジェクト&第6回ひとときカフェ	2022年 7月23日	18,000 円	
第2回Love, Peace, Freedom & Diversity コンサート	2022年 9月10日	20,000 円	
トルコ・シリア大地震第1次被災者支援	2023年 2月13日	40,000 円	
トルコ・シリア大地震第2次被災者支援	2023年 2月28日	10,000 円	
◆特定非営利活動法人国連UNHCR協会			137,000 円
難民・避難民の皆さんと進むプロジェクト		67,000 円	
2022年5月2日10,000円、6月8日10,000円、8月9日10,000円			
9月1日7,000円、11月17日10,000円、2023年1月16日10,000円、2月28日10,000円			
第17回種を蒔く人のお話を聴く会	2022年 12月17日	30,000 円	
トルコ・シリア大地震第1次被災者支援	2023年 2月13日	30,000 円	
トルコ・シリア大地震第2次被災者支援	2023年 2月28日	10,000 円	
◆Common Cafe 22,000円			22,000 円
第12回種を蒔く人のお話を聴く会 & 第4回SDGs勉強会	2022年 4月23日	22,000 円	
◆公益社団法人チャイルド・ケモ・サポート基金			24,000 円
第13回種を蒔く人のお話を聴く会 & 第10回SDGs勉強会	2022年 7月21日	24,000 円	
◆フェアトレードコットンイニシアティブ			30,000 円
第14回種を蒔く人のお話を聴く会 & 第11回SDGs勉強会	2022年 8月13日	30,000 円	
◆認定NPO法人アクセス			32,000 円
第15回種を蒔く人のお話を聴く会 & 第12回SDGs勉強会	2022年 10月8日	32,000 円	
◆一般社団法人ニジュール物語製作委員会			20,000 円
第7回ROUDOKUプロジェクト&第7回ひとときカフェ	2022年 11月26日	20,000 円	
◆一般社団法人手話エンターテイメント発信団oioi			25,000 円
第18回種を蒔く人のお話を聴く会 & 第2回手話パフォーマンスワークショップ	2023年 1月21日	25,000 円	
◆kokoroふぁーむ録			22,000 円
第19回種を蒔く人のお話を聴く会 & 第14回SDGs勉強会	2023年 2月25日	22,000 円	
◆国境なき医師団			10,000 円
第1回セルフケアヨガ&第8回ひとときカフェ	2023年 3月25日	10,000 円	
			●合計 507,000 円
【当団体への寄付報告】			
◆個人寄付	4月1日	500,000	
◆個人寄付	4月1日	500,000	
			●合計 1,000,000 円

法人名: 一般社団法人blue earth green trees

正味財産増減計算書

令和 4年 4月 1日 から令和 5年 3月 31日 まで

(単位: 円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益			
健康等促進事業収益	15,400	0	15,400
物品販売事業収益	170,000	373,000	△ 203,000
事業収益計	185,400	373,000	△ 187,600
受取寄付金			
受取寄付金	1,446,300	1,221,983	224,317
雑収益			
受取利息	10	2	8
雑収益	7,222	0	7,222
雑収益計	7,232	2	7,230
経常収益計	1,638,932	1,594,985	43,947
(2) 経常費用			
事業費			
仕入原価	240,882	331,970	△ 91,088
旅費交通費	12,000	1,000	11,000
通信運搬費	3,920	42,690	△ 38,770
消耗品費	8,861	0	8,861
賃借料	90,350	58,560	31,790
支払負担金	0	30,000	△ 30,000
支払寄付金	547,000	541,983	5,017
雑費	13,241	8,754	4,487
事業費計	916,254	1,014,957	△ 98,703
管理費			
通信運搬費	11,055	22,345	△ 11,290
減価償却費	51,406	93,415	△ 42,009
消耗品費	0	20,000	△ 20,000
賃借料	156,552	70,190	86,362
租税公課	11,200	0	11,200
支払負担金	40,000	10,000	30,000
管理諸費	149,337	0	149,337
雑費	2,082	19,969	△ 17,887
管理費計	421,632	235,919	185,713
経常費用計	1,337,886	1,250,876	87,010
評価損益等調整前当期経常増減額	301,046	344,109	△ 43,063
当期経常増減額	301,046	344,109	△ 43,063
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	301,046	344,109	△ 43,063
法人税、住民税及び事業税	71,000	78,900	△ 7,900
当期一般正味財産増減額	230,046	265,209	△ 35,163
一般正味財産期首残高	853,788	588,579	265,209
一般正味財産期末残高	1,083,834	853,788	230,046
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,083,834	853,788	230,046

理事・事務局メッセージ

理事（敬称略）	
岡崎 伸彦/OKAZAKI Nobuhiko	マスク無しの生活がついに戻ってきました！お互いの顔を見ながら会話できる幸せを大事にしたいと思います。これからもみなさまの笑顔が見れますように
尾松 貴美/OMATSU Kimi	街には活気が戻り、長い間マスク越しだった相手の表情も見えるようになってきましたね。忙しい日々の中で忘れがちな大切な事に気づきを与えてくれる場所に感謝しています。
小原 祥子/KOHARA Shoko	コロナ禍終焉を願う中、人間の行いから生まれる残酷な現実を目にする日々となりました。祈りとともに、自分にできる小さな何かを考え続けていきたいと思っています。
杉岡 博幸/SUGIOKA Hiroyuki	マスクを外し会話する機会が多くなりました。この日常を本当にありがたいことだと感じています。今年度も様々な方々との出会いを通してさらにこの活動を皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っています。
田中 啓義/TANAKA Hiroyoshi	コロナ禍、ウクライナ侵攻と、世界を騒がす大事件が続く今でこそ、地道な活動を誠実に継続することが、重要だと思います。細部にこそ神は宿る。
東口 千津子/HIGASHIGUCHI Chizuko	国内外の多様な個人の声を聴き合い、学び合い、育て合う場を一緒に創って下さり感謝致します。どんな暗闇でも個人の人間性と自然のあり方に光と希望を見つけていけたらと思います。
松本 由季子/MATSUMOTO Yukiko	2022年度は、布ナプキンプロジェクトを通して新たな出会いと繋がりの機会をいただくことができました。ご縁をいただいた皆様に感謝しております。
矢倉 真由子/YAKURA Mayuko	感謝すべきことで溢れている日常に支えられていることを深く感じる日々です。どこかで何かに役立つようにと願いながら、僅かながらも自分にできることを積み上げていきたいと思っています。
山納 洋/YAMANO Hiroshi	我々を取り巻く社会課題の中には、解決しようのないものもあります。我々には課題を解決する力だけでなく、答えの出ない状態を耐えぬく力が必要とされていると思っています。
事務局ボランティア（敬称略）	
今中 和子/IMANAKA Kazuko	何気なく過ぎていく日常が、なんだか少し輝いた日々になるような、そんな気付きや思いをあたえていただけてとてもありがたく思っています。
長尾 邦光/NAGAO Kunimitsu	「誰かの笑顔の為に」と活動する中で活動者が笑顔になりその笑顔を見た他のメンバーも笑顔になる。そんな「人の持つ優しさに触れる」事が出来た一年でした。
西井 ひろ美/NISHII Hiromi	各プロジェクトでお話を聴く時間、それぞれの思いを聴き合う時間がとても大切な時間になっています。
埴 香織/HANAWA Kaori	多様な文化や暮らし、人々の強さや優しさを知り世界の課題に対して自分はどう動くのかを考え、行動につなげる機会を頂けることに感謝しています。
六田 裕子/ROKUTA Yuko	多様なお一人おひとりの慈愛を感じながら、スタッフの一員として参加させていただけることに感謝致します。
監事（敬称略）	
中島 大/NAKAJIMA Hiroshi : 中島大会計事務所	